



Anniversary Report

国分寺市障害者基幹相談支援センター



イメージキャラクター とわぷる

愛称を募集したところ、日本全国から 532 名、1,002 点の応募をいただきました。



「切りかぶ（幹）の上に座って編んでいるのは、地域のネットワークだよ。
大好きなみんなのことを思いながらマフラーをつくっていて、七色は多様性を意味するんだ。
4つの糸玉は、基幹の役割 ①**専門相談** ②**地域との連携** ③**地域移行・地域定着** ④**権利擁護・虐待防止**
をそれぞれあらわしているよ。」

ウェブサイトも見てね！➡



10年を振り返る、その先へ



室地 隆彦

社会福祉法人万葉の里 理事長



障害のある方やそのご家族が安心して暮らせるまち、そのような「まちづくり」を目指すことが、福祉にかかわる者に与えられた使命ではないでしょうか。

そのためには、高齢、障害、子ども、そして医療・健康、福祉、教育、労働など地域で活動しているさまざまな主体が、分野や制度を超えてそれぞれがネットワークを組み、「連携」と「協働」のもとに地域で暮らす障害のある方やご家族を支えていく仕組みを創り上げていく必要があります。

しかし、現実には「連携」と「協働」と言っても、個々の事業者のみでは時間や労力に限界があるのも事実です。基幹相談支援センターに求められている役割は、これらをサポートし、つなぎあわせていくことです。

国分寺市障害者基幹相談支援センターが設置されて10年。この基幹相談支援センターが、地域で活動されているさまざまな事業者の潤滑油的役割を担い、皆さまから頼られる存在となるように、今後も引き続き努力してまいりたいと思います。

銀川 紀子

国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長



令和4年4月1日をもちまして、国分寺市障害者基幹相談支援センターは、設置10周年を迎えることができました。皆さまの日頃からのご支援とご協力のおかげと感謝しております。

基幹相談支援センターは、国分寺市の相談支援の中核として、相談支援事業所をはじめ、地域の支援者とネットワークをつくり、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくりを目指してまいりました。

地域の皆さまとの連携をより一層深めていこうとした令和2年、新型コロナウイルスの感染拡大という世界中を脅かす事態が発生しました。三密を避け、外出を控え、感染防止対策が求められるなか、事業運営も危ぶまれた時もありましたが、オンラインでつながるという方法を取り、各事業所のインターネット環境等を確認しながら、皆さまとつながってまいりました。研修や会議開催においても、いろいろなお知恵をお貸しいただき、予定していたものを中止することなく開催ができましたこと重ねて厚く御礼申し上げます。

このたび、設置10周年を記念して、基幹相談支援センターをさらに皆さまに身近に感じていただけるよう、イメージキャラクターを制作しました。その愛称は、日本全国からご応募いただき、「**とわぶる**」と決定しました。その詳細は、基幹相談支援センターのウェブサイトで紹介させていただいております。これから先、基幹相談支援センターの歩みと共に、「**とわぶる**」も皆さまに愛されるキャラクターとして育てていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



坂田 晴弘

国分寺市障害者基幹相談支援センター 初代センター長



「基幹相談支援センター はじまりの物語」

国が「相談支援体制の充実」を掲げた「障害者自立支援法」の見直しにあたり、万葉の里の板山賢治理事長（初代）が、「今度設置される“基幹相談支援センター”は、国分寺市にも必要である。万葉の里が引き受けるのが妥当だろうか。」と言っていたところ、平成24年4月、法律の施行と同時に、国分寺市障害者センターに「国分寺市障害者基幹相談支援センター」が設置されました。当時の私にとっては、まるで降って湧いたような話で、物凄くびっくりしたのを覚えています。

基幹相談支援センターは、各区市町村が任意に設置でき、その当時は、その機能や仕組み、期待される役割などは国もしっかりと明示していない段階でした。市に問い合わせても、基幹の事業計画は白紙のまま、まさに、基幹の職員が一から考えるところからはじまりました。

そのような状態でしたので、既に設置され

ている他市の基幹相談支援センターをウェブサイトで見ると検索するところから基幹の仕事がスタートしたのです。まずは、千葉県船橋市「ふらっと」と愛知県田原市「田原市障害者総合相談センター」の見学に出向き、お話を伺ってきました。この段階では、たった2人の職員で、今後どのように具体的な事業を展開していくのか、今を思えば手探りの毎日でした。

地方の入所施設にお世話になっている国分寺に戻ってきたい市民の方に、地元に戻っていただくために、そして、精神科病院に長期入院している方を訪問して、まずは受け入れもらえるグループホームをあちこち探すと、いった地域移行や権利擁護の業務から着手しました。

その後は、基幹相談支援センターのさまざまな機能や役割が明確になり、法令に合わせて整備をしていくこととなります。それが、基幹相談支援センターはじまりの物語です。



平成29年度スキルアップ研修Ⅰ（高齢）
【障害福祉から介護保険へ】



平成30年度支援者向け虐待防止研修
【虐待防止と意思決定支援】



平成30年度ネットワーク研修Ⅲ（児童）
【発達に気がある子どもと家族の実際】

国分寺市障害者基幹相談支援センター 10th 年表

平成24年(2012年)4月1日、「障害者自立支援法」の改正時の相談支援体系の見直しの一環で、「基幹相談支援センターは、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関」と法律上に位置付けられ、「市町村は、基幹相談支援センターを設置することができる」とされた。(現・「障害者総合支援法」第77条の2)。

01

平成24 2012

- ・国分寺市障害者センターの指定管理協定締結(H.24～H.26)において基幹が設置された。
- ・「国分寺市障害者自立支援協議会」(条例設置)の運営協力として、基幹の職員が関わった。
- ・虐待防止パンフレットとその音訳媒体(CD)を制作し市内の各機関に配布した。

02

平成25 2013

- ・基幹と地域活動支援センターつばさが一体的な運営を開始し、相談記録ソフトウェアを導入した。
- ・基幹の在り方について、市と具体的な検討を継続して行った。
- ・市内の相談支援事業所一覧、基幹パンフレットとその音訳媒体(CD)を制作し関係者に配布した。

03

平成26 2014

- ・地域活動支援センターつばさとの一体的な運営を解消し、業務と分離後、基幹単独で業務を再構築した。
- ・基幹の相談支援事業の実績データを初めて開示し、「多様な支援業務」の実態を明らかにした。
- ・市民向け講演会を開催し、初回はアンガーマネジメント(入門編)を扱った。

04

平成27 2015

- ・相談支援専門員を対象とする事例勉強会や研修等を「スキルアップ研修」として体系化した。→P8参照
- ・国分寺市基幹の呼びかけで都下の基幹が集い意見交換会を開催し、以後、持ち回りで年3回開催する。
- ・基幹の職員を対象とする、外部の専門家による定期的なコンサルテーションを導入する。

05

平成28 2016

- ・法人の実践研究事業に参加し、外部講師の協力のもと相談業務の実績データを解析した。
- ・「国分寺市障害者地域自立支援協議会」(要綱設置)が再編され、市と基幹が事務局として運営に携わる。
- ・「ネットワーク研修Ⅱ(障害福祉・高齢福祉)」を新たに開始した。
- ・基幹のパンフレットと障害者差別解消法のリーフレットを当事者とその家族向けに作成した。

06

平成29 2017

- ・相談支援専門員が集う相談支援事業所連絡会を発足し、毎月定例で開催する。
- ・「ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)」を新たに開始し、近隣の精神科病院が国分寺市に集った。
- ・「国分寺市障害者地域自立支援協議会」のニューズレターを事務局として創刊する。年2回発行。

07

平成30 2018

- ・国分寺市障害者センターから東戸倉のKOCO・ジャムに基幹が移転し、市の委託事業を受託する。
- ・相談支援事業所への訪問と、相談支援専門員を対象とする専門家による個別コンサルテーションを開始した。その他、相談支援専門員の新任向け研修をスタートさせた。
- ・「支援者向け虐待防止研修」を新たに開始した。
- ・障害児通所支援事業所懇談会(現・連絡会)が発足し、「ネットワーク研修Ⅲ(児童)」を新たに開始した。
- ・緊急入所保護事業説明を家庭訪問等で市と開始する。24時間365日の緊急支援体制を取り入れる。
- ・小冊子『国分寺市こどもあんしん相談ナビ』を相談支援部会で編纂して発行した。

08

令和1 2019

- ・新型コロナウイルス感染防止策でオンライン会議を導入、ソーシャルディスタンスに配慮した業務を行った。
- ・基幹の「ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)」と精神保健福祉部会、北多摩西部圏域研修との連動を開始した。→P6参照
- ・市内の相談支援専門員を対象にアンケート調査(基幹の外部評価)を実施し、基幹の実践研究に反映させた。

09

令和2 2020

- ・コロナ禍の緊急事態宣言下でも、各種会議や研修等を中止することなく、オンライン会議を開催した。
- ・実践研究、『基幹相談支援センターの実践の展開』(最終回)を法人内外で発表した。
- ・小冊子『支援者向け(障害福祉分野)国分寺市あなたと私の権利を守るサポートBOOK～書類手続き・金銭管理編』を相談支援部会で編纂して発行した。

10

令和3 2021

- ・周年事業の一環として、基幹のイメージキャラクターの名前を広く募集し「むわぶる」に決定した。それを記念してクリアファイルを制作し、関係機関に配布した。
- ・研修開催は、一部YouTubeを活用した見逃し配信を行い、関係者に広く視聴してもらった。
- ・外部の各方面で開催されるオンライン研修に職員が積極的に参加して研鑽を積んだ。

国分寺市障害者基幹相談支援センターとは

地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、障害のある国分寺市民の方やそのご家族、また支援機関の方からの相談を受け、障害のある方が地域で、自分らしく安心して生活できるよう支援しています。

具体的には、児童から成人期、また高齢期にむけたライフサイクルにそった「切れ目のない支援」を目指すほか、「緊急を緊急にしない具体的な取組」を地域の各機関と話し合い、国分寺市の支援体制を整えています。

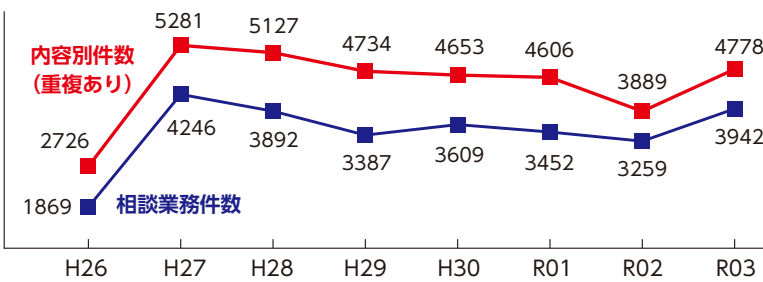
さらに、「国分寺市障害者地域自立支援協議会」の運営に協力し、今後もフットワークを軽く、関係者や地域の皆さまとの細やかな網の目づくり(ネットワーク)を通じて、国分寺市全体に地域のネットワークを巡らせ誰もが安心して暮らせる「まちづくり」を進めていきます。

1 総合相談・専門相談

障害のある方やそのご家族から、暮らしのこと、経済的なこと、人間関係について、また将来的な不安など、幅広い相談が寄せられるほか、関係機関の支援者からも多くの相談が入ってきます。それらのさまざまな相談等に対して、各分野の専門職などと共に連携しながら対応にあたっています。

(1)直接支援	(2)地域連携サポート	(3)家族支援
ご本人との面談等を実施する。 (電話相談、家庭訪問など必要に応じて)	相談支援事業者及び、関係機関の後方支援としてサポートする。	ご本人の生活課題の解決や生活の安定のために家族との面談・訪問等を実施する。
(4)困難ケースの把握		(5)コンサルテーション
ご本人とご家族の支援が必要なケース、虐待に発展してしまいそうなケース等、今後、基幹がなんらかの支援に入る可能性があるケースの状況等を把握する。		弁護士や精神科医、臨床心理士などの専門家から支援者への助言をする「個別コンサルテーション」の時間を提供する(年間18時間)。
(6)情報提供		(7)地域課題の把握
地域の社会資源の情報のほか、法律や制度等の情報を提供する。		地域の支援体制や社会資源、制度等に関する地域課題を、国分寺市障害者地域自立支援協議会にあげて共有していく。

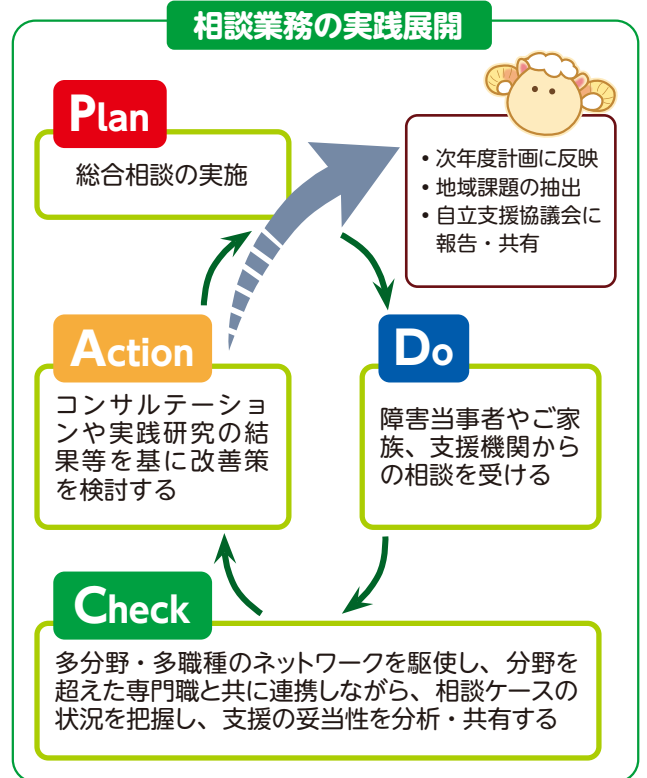
〈相談業務件数・内容別件数〉



〈支援方法〉

方法	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
訪問		106	178	127	110	54	51	27	29
来所相談		132	183	95	112	46	42	15	33
同行		29	49	25	17	9	12	5	2
電話		284	819	648	555	430	339	150	199
電子メール		1	36	23	19	12	12	1	21
会議		65	54	32	35	25	31	26	27
関係機関		1,206	2,834	2,919	2,536	3,033	2,962	3,035	3,631
その他		46	93	23	3	0	3	0	0
総計		1,869	4,246	3,892	3,387	3,609	3,452	3,259	3,942

相談業務の実践展開

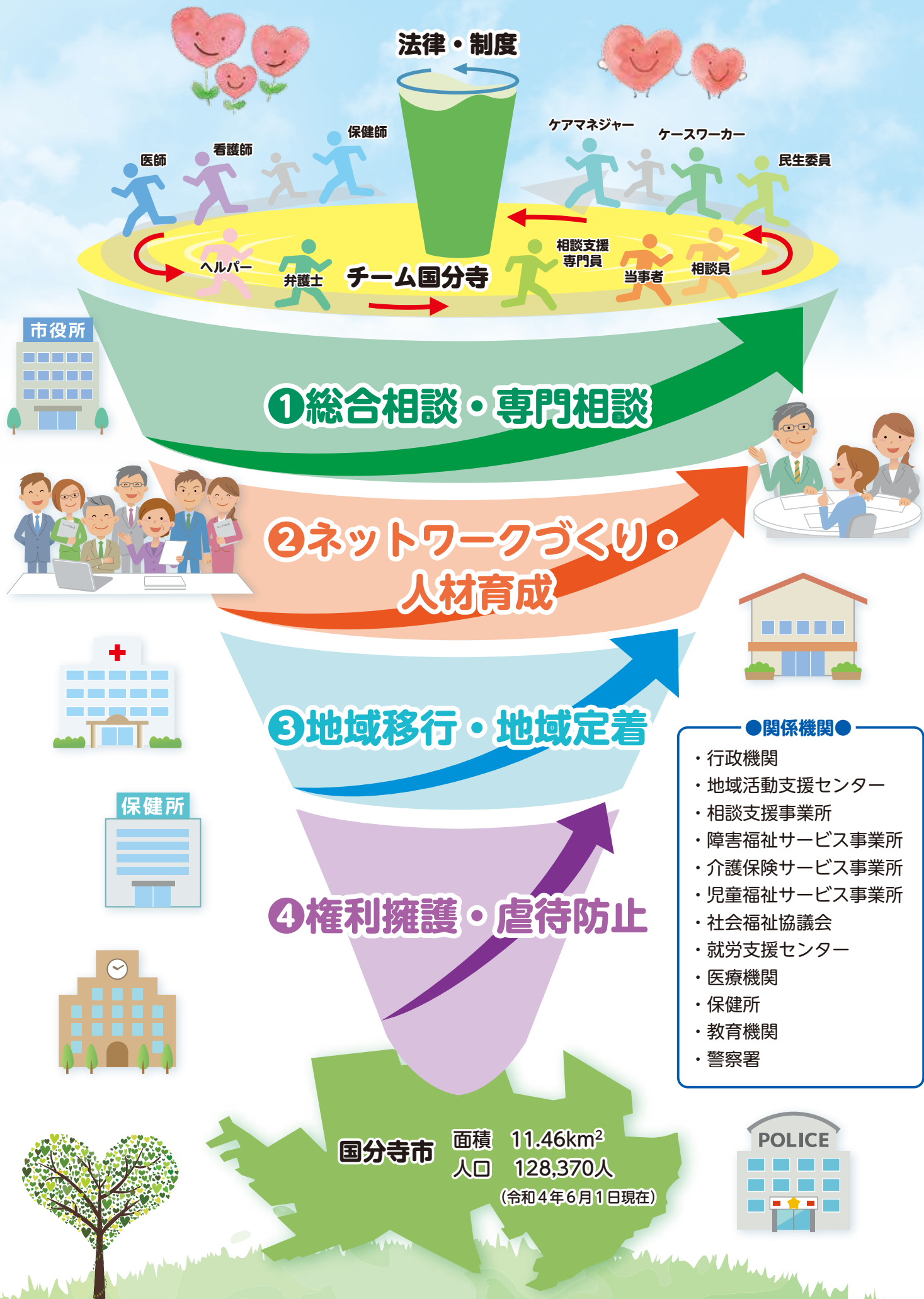


【基幹の実践研究】

平成28年度より、基幹が対応する「総合相談・専門相談」の内容を解析し、基幹に求められる役割や基幹が果たした機能を把握しました。

実践研究では、石田賢哉氏(※青森県立保健大学 教授)に共同研究者として協力いただきました。※令和4年度4月より、山口県立大学 社会福祉学部 教授

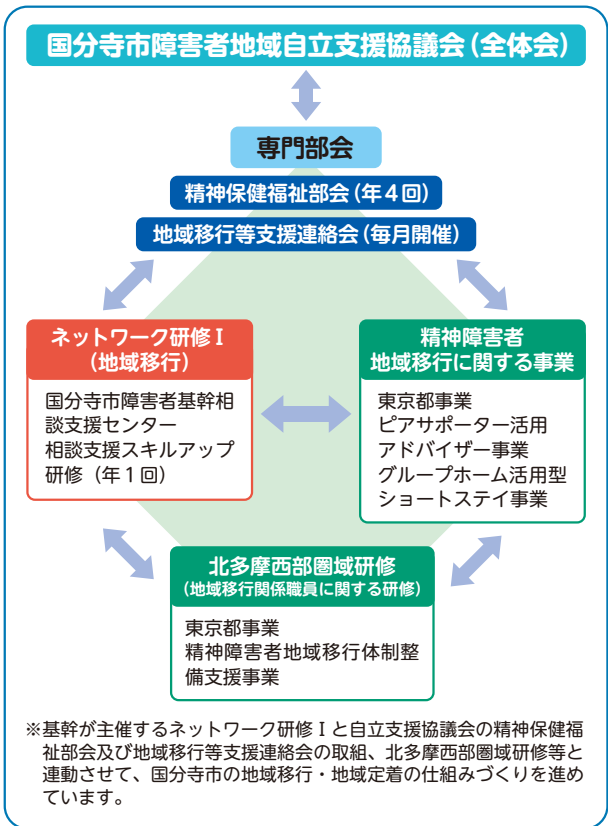
年度	【実践研究のテーマ】と成果
H28	「基幹に持ち込まれる相談内容を分析し、相談の傾向を捉える」 本人とその家族の関係に課題が山積する場合に、関係機関から基幹に相談が入ることが多い。また、地域課題として、他分野・多職種の支援ネットワークの構築があげられた。
H29	「基幹が果たしている機能～相談実績からの分析～」 テキストマイニング手法を活用し、相談記録のテキストを分析した結果、基幹が相談者へ「情報提供」や「コンサルテーション」を実施すると、硬直した案件が動き出すなど潤滑的な役割のほか、基幹が相談者の思いを関係各所に伝える通訳的な役割も担っていることが見出された。
H30	「基幹が果たしている機能 Part2 ～相談実績からの分析」 基幹の総合相談の役割として、市内の相談支援専門員を中心とした関係機関と困難ケースの状況を把握し、必要に応じて家族支援や他分野との連絡調整等を行った。つまり、本人を取り巻く環境の調整をはかりながら、支援ケースの捉え直しを行っていることを理解した。
R01	「基幹が果たしている機能 Part3 ～他者評価からの分析」 市内に登録している相談支援専門員にアンケート調査を実施した。基幹が評価された点は、基幹も共に支援の検討へ参加している定例の事業所連絡会の開催やスキルアップ研修の実施等だった。更に、他分野・多職種の支援ネットワークの構築の強化が期待されている。
R02	「基幹相談支援センターの実績の展開」 平成28年度からの一連の実践研究によって、基幹の役割と機能が明らかになった。また、これまでの実践研究の成果から、基幹が実施する各事業への展開につなげられていることが捉えられた。



2 ネットワークづくり・人材育成

国分寺市障害者地域自立支援協議会の事務局の運営に携わり、国分寺市内の相談支援専門員を対象とする相談支援事業所連絡会を毎月開催するほか、障害児通所支援事業所連絡会を開催しています。また、基幹が主催する「ネットワーク研修」では、主に市内の支援者を対象とし、地域全体の支援力の向上及び関係機関との連携強化を目的として、「地域移行」、「高齢福祉（介護保険）」、「児童福祉」をテーマに各種研修を開催しています。 ※8ページの「相談支援スキルアップ研修」の図をご参照ください。また、過去の研修実績は、基幹のウェブサイトをご覧ください。

3 地域移行・地域定着



国分寺市障害者地域自立支援協議会 (令和4年度)

- ・全体会 (年3回)
- ・相談支援部会 (年3回)
- ・就労支援部会 (年3回)
- ・精神保健福祉部会 (年4回)
- ・相談支援事業所連絡会 (毎月)
- ・農福連携に関する協議
- ・地域移行等支援連絡会 (毎月)
- ・障害児通所支援事業所連絡会 (年2回)
- ・国分寺障害者施設お仕事ネットワーク
- ・就労支援事業所連絡会

自立支援協議会のニュースレター・巻頭言タイトル／執筆者

(肩書は、掲載時のものを記載)

No. 1 障害者の地域生活支援と「まちづくり」～自立支援協議会の役割～ 石渡 和実 (東洋英和女学院大学教授) 国分寺市障害者地域自立支援協議会 会長	No. 2 まちづくり入門 一ひとと場所、ひととひとをつなぐ 長沼 行太郎 (まちづくり研究者)	No. 3 障害のある人が暮らす豊かなまち 池原 毅和 (弁護士)	No. 4 「誰もが、まちの一部であるようなまち」を目指して 白石 弘巳 (精神科医)	No. 5 海にみる私たちのテーマ 藤井 克徳 (NPO法人日本障害者協議会代表)
No. 6 福祉人材の確保を急ごう 野澤 和弘 (毎日新聞社 客員編集委員)	No. 7 「安心」という言葉から、人々の中で生きていくことを考える 足立 剛 (弁護士)	No. 8 「世帯を支える支援体制」の実現に向けて 石田 賢哉 (青森県立保健大学 教授)	No. 9 地域で・ともに・私らしく ーセラピューティックコミュニティの実現に向けてー 角田 みすゞ (臨床心理士 公認心理師)	No. 10 「災害時の障がい者支援と地域共生社会」 鍵屋 一 (跡見学園女子大学 教授)

精神科病院で長期に入院している方や入所施設で過ごしてこられた方で、国分寺に戻って暮らしたいと希望される当事者とそのご家族等を対象に、市と基幹、地域の関係機関と共に、支援ネットワークを構築し、地域生活を見据えたサポート体制の整備を進めています。

ネットワーク研修Ⅰ

年度	「タイトル」／講師	場所
H29	「地域移行支援 in 国分寺～私たちにできる具体的行動～」 講師：伊澤 雄一氏 (はらからの家福祉会 総合施設長)	国分寺市障害者センター 2階多目的室
H30	「地域移行支援 in 国分寺～私たちにできる具体的行動～」 講師：君島 淳子氏 (東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 地域体制整備担当)、尹 聖根氏 (社会福祉法人はらからの家福祉会 地域生活支援センタープラッツ 地域移行コーディネーター)	cocobunji プラザ リオンホール Aホール
R01	「地域移行支援 in 国分寺～地域包括ケアシステムの構築を目指して～」 講師：毛塚 和英氏 (社会福祉法人はらからの家福祉会 地域生活支援センタープラッツ 地域移行コーディネーター)	cocobunji プラザ リオンホール Aホール
R02	「地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキング・グループ活動開始報告～」 (令和2年度第3回精神保健福祉部会を併せて開催) 講師：津川 孝治氏 (東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 地域体制整備担当)、毛塚 和英氏 (同上)	cocobunji プラザ リオンホール Aホール
R03	「地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキング・グループ活動開始報告～」 講師：津川 孝治氏 (東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 地域体制整備担当)、毛塚 和英氏 (同上)	〈YouTube 限定公開〉

4 権利擁護・虐待防止

市内の福祉関係機関の支援者及び教育関係者を対象に、虐待防止・権利擁護をテーマとした研修会の開催はじめ、成年後見制度や障害者差別解消法の普及・啓発のほか、市に設置されている虐待防止センターと連携した虐待防止と早期解決に取り組んでいます。

年度	タイトル／講師	※会場は、いずれも cocobunji プラザ リオンホールにて開催した。
H30	「虐待防止と意思決定支援」 講師：池原 毅和氏 (東京アドヴォカシー法律事務所 弁護士)	
R01	「なぜ人は虐待をするのか～障害のある人の尊厳を守るために～」 講師：野澤 和弘氏 (毎日新聞社 客員編集委員)	
R02	「発達障害のある方の特性を理解する～虐待防止と意思決定支援」 講師：堀江 まゆみ氏 (白梅学園大学 子ども学部発達臨床学科 教授)	
R03	「これって虐待？～重度障害者への意思決定支援～」 講師：芹澤 正博氏 (社会福祉法人あだちの里 希望の苑 副施設長)	

国分寺市の 基幹相談支援センターとともに



国分寺市障害者基幹相談支援センター10周年を機に、基幹とこれまで関係を紡いでくださった方々より、メッセージをお寄せいただきました。誠にありがとうございます。

石渡 和実

東洋英和女学院大学 名誉教授
国分寺市障害者地域自立支援協議会 会長



国分寺市障害者基幹相談支援センターの活動は、10周年とは思えないほど、地域への「根づき」といったものを感じさせられます。

国分寺市障害者地域自立支援協議会に参加すると、各委員の皆さまの発言に圧倒されてしまいます。「この立場だからこそ言える！」という発信を、障害があるご本人やそのご家族、支援者と行政、地域の人のだれもが話してください。私自身が納得してしまう話ばかりで、同じ場にご一緒できることに「ただ、ただ感謝！」しています。

基幹相談支援センターが、あらゆる市民を尊重し、また地域を丁寧^{ていねい}に耕^かってきた成果だと考えます。「人」だけでなく、地域の事業所やスーパー、農家など、組織や機関も見事に育て上げています。国分寺に来るたびに、国分寺のあたたかい雰囲気^{きふき}に、わたしの心がなごみます。

これらは、基幹相談支援センターの研修などの成果も大きいでしょうが、一人ひとりの「自分らしく生きたい」を実現しよう^{まか}と関係者が力を合わせ、その「つなぎ役」を基幹が確実に果たしてきたのだと思います。

この10周年を機に、新たに登場したイメージキャラクターの「**わぶる**」が、七色のマフラーを編んでいます。基幹相談支援センターの活動そのものだなと心もあたたかくなります。

石丸 明子

国分寺市福祉部障害福祉課長



“国分寺市障害者基幹相談支援センター
10周年に寄せて”

国分寺市障害者基幹相談支援センターを育ててくださった職員の皆さま、事業所や関係機関、市民の皆さまに心より御礼申し上げます。

市と基幹相談支援センターの職員は常に相談、協力しながら、各事業の推進に取り組んできました。

なかでも、相談支援強化の取組には力をいれてきました。基幹相談支援センターが毎月開催する「相談支援事業所連絡会」や、基幹相談支援センターが毎年市内全ての相談支援事業所を訪問することにより、相談支援専門員が気軽に基幹に相談するようになり、困難ケースの会議に基幹相談支援センターと共に参加することが増えました。信頼し合える関係のなか、専門的立場で相談支援専門員を基幹相談支援センターがサポートする体制が出来てきたと感じます。

これからも、基幹相談支援センターの更なる発展に向けて、共に力を尽くしてまいります。

伊澤 雄一

社会福祉法人はらからの家福祉会
前総合施設長
精神保健福祉部会 前部会長



国分寺市障害者基幹相談支援センター、設置10周年おめでとうございます。

「何をどう取り組んだらよいやら」という、設置当初には迷いに満ちたお話をうかがいました。

あれから10年。大所高所から市域全体を捉え、多彩な研修会のプロデュース、多様な支援連絡会の活性化、国分寺市障害者地域自立支援協議会の機能強化、さらに個別の支援におけるコンサルという緻密さも含め、まさに「マイクロ・メゾ・マクロ」のそれぞれのステージにおいて、地域生活支援が活気づく仕組みづくりにご尽力^{きんりょく}いただいております。その姿には矜持^{きんじ}と自信が漲^{もよほ}っています。

今後とも、「フットワーク」良く、「ネットワーク（編む・紡ぐ）」、さらに「パッチワーク（つなげる・結束・連動）」を通じて、国分寺の大いなる支援ネットワークの創造に、そして「支え合いの街づくり」に寄与^{きよ}されますよう、よろしく願いいたします。

福山 和女

ルーテル学院大学名誉教授



国分寺市障害者基幹相談支援センター開所10周年記念おめでとうございます。

銀川紀子氏をリーダーとしてスタッフの皆さんが日々進化している姿を、毎年3～4回のコンサルテーションにて、実感してきました。利用者さんやご家族への支援を、真摯^{まじん}に、温かく、熱く、そして忍耐強く取り組んでこられました。個人を取り巻く家族システムに焦点を当て、彼らの尊厳を保持し、これまでの取り組み努力を十分に理解し、なおかつ、今後も取り組み続けられるように支援することの大切さや意義を示してこられました。

この支援の実践には、莫大なエネルギーが必要です。基幹相談支援センターが、組織的に取り組み、メゾレベル以上の成果を出すには、地域全体での多機関協働体制の稼働が必要です。スタッフの皆さんが、システム論を基盤として、専門的知に則り、この協働体制におけるリーダーシップを発揮されること、それが、この相談支援センターが基幹である所以であると思います。

さらに、皆さんが専門家として、利用者さんやご家族と共に伴走して、進化し続ける姿を期待しています。どうぞ、がんばってくださいね。

国分寺市障害者基幹相談支援センター 相談支援スキルアップ研修体系

虐待や権利侵害につながる虐待の芽について感じる力を養うとともに、意思決定支援の基本的な考え方を学び、一人ひとりの権利擁護につながる意識を高める。市内の障害・高齢・児童分野・教育関係者に周知・案内し、各事業所の虐待防止研修としても活用されている。

支援者向け 虐待防止研修

発達に気がかりのある子どもの子育ての実際と家族の思いに触れ、子どもの育ちへの支援に活かす視点を学ぶとともに、市内の障害児支援に関わる関係機関や支援関係者の顔の見えるネットワークの構築を図る。

ネットワーク 研修Ⅲ (児童)

高齢福祉分野から寄せられる、引きこもりの長期化等により、地域の支援につながらないまま社会から孤立する「8050問題」の相談を通じて、世帯を支える支援の視点を共有し、包括的な支援体制を考える。

ネットワーク 研修Ⅱ (障害福祉・高齢福祉)

精神科病院に長期間入院している方が地域で暮らせるまちづくりを目指し、支援者同士が信頼し合える関係づくりを進めるとともに、私たちにできる具体的な行動を考え、地域生活の実現に向けた支援体制を構築する。

ネットワーク 研修Ⅰ (地域移行)

・東京都事業精神障害者地域移行体制整備支援事業と連動
→P6参照

年度初めに、市内の相談支援事業所を訪問し、各事業所の現況を把握するとともに、研修テーマや企画の内容につなげる。

相談支援 事業所訪問

国分寺市障害者地域 自立支援協議会との連動

相談支援部会

- 相談支援事業所連絡会
- 障害児通所支援事業所連絡会

精神保健福祉部会

- 地域移行等支援連絡会

高齢福祉分野との連携

- 高齢福祉課
- 地域包括支援センター

相談支援スキルアップ研修とは

国分寺市内の専門的人材の育成および相談支援の質の向上、相談支援専門員をはじめとする障害者支援に携わる関係機関間の有機的なネットワークの構築を目指して、国分寺市障害者基幹相談支援センターが主催する研修会です。相談支援スキルアップ研修の開催を通じて見えてきた地域課題は、国分寺市障害者地域自立支援協議会や各専門部会（相談支援部会、精神保健福祉部会、就労支援部会）でも共有し、地域課題の掘り起こしや、課題の解決に向けた検討を行い、具体的な取組へとつなげていきます。

そのほか、基幹の独自事業として、「新任・ブラッシュアップ研修」、「事例勉強会」、「個別コンサルテーション」を実施し、専門家等の助言を得ながら、支援力の向上を目指し、相談支援事業所との連携強化やネットワークの構築を図っています。

「国分寺市障害者基幹相談支援センター 10周年 Anniversary Report」

令和4年（2022年）8月31日発行

社会福祉法人 万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・シヤム2階

電話：042-320-1300

FAX：042-313-8823

<https://kokubunji-kikan-towaple.com/>



*この冊子は、環境に優しい
原材料を使用しています。

印刷：社会福祉法人 東京コロニー